

1967年(32歳)

第41回国画会展《人間の季節(春)》  
第22回全道展《人間誕生》  
個展(札幌・大丸第2ギャラリー)

1968年(33歳)

第42回国画会展《人間の季節-春-》  
第23回全道展《東方の悲しみ》  
個展(HBC三条ビルギャラリー)

1969年(34歳)

浦河町社会福祉センター綴帳原画制作  
札幌市琴似八軒にアトリエを移す。  
日本美術家連盟研究員として渡仏。  
グラン・ミショエール美術研究所にて研修。  
第24回全道展《寡婦》  
サラン・ドートンヌ出品《シャンブル》

1970年(35歳)

第5回トラブール国際グランプリ(リヨン)招待作家に選ばれる。《娼婦達》  
ナショナル・ボザール出品《La Nudite'》

1971年(36歳)

全道美術協会会員展(札幌三越デパート)《カルメンマルティン像》  
第45回国画会展《巴里の女達》  
滞欧作品展(札幌時計台ギャラリー)  
第26回全道展《恋人達》  
滞欧作品展(浦河福祉センター)  
滞欧作品展(東京・日動サロン)  
第4回北海道秀作美術展(北海道立美術館)《恋人達》

1972年(37歳)

第2回全道美術協会会員(札幌三越)《恋人達》《姉妹達》  
第46回国画会展《恋人たち》  
第27回全道展《ポントワーズの夫婦》  
第5回北海道秀作美術展(北海道立美術館)《女達》  
北海道教育大学岩見沢校非常勤講師(美術実技担当)。79年3月まで。  
個展(札幌時計台ギャラリー)

1973年(38歳)

第3回全道美術協会会員(札幌三越)《テレホン》《トワレット》  
北海タイムス連載「ドキュメント 苫小牧港」(文/木野工)の挿絵を担当(189回)。  
父・眞澄死去  
第28回全道展《父子像》  
個展(札幌時計台ギャラリー)  
第6回北海道秀作美術展(北海道立美術館)《父子像》  
個展(浦河町福祉センター)  
北海道職員等文化祭、絵画部門審査員(以後、現在に至る)  
名土色紙展(札幌丸井今井デパート)

1974年(39歳)

第4回全道美術協会会員(札幌三越)《娼婦の像》《男の像》  
STVラジオ「日産フラッシュジャーナル」出演  
浦河町ファミリースポーツセンター前庭に青少年希望の像《海の少女》設置  
第29回全道展《パウロの午後》  
個展(札幌時計台ギャラリー)



《恋人たち》  
1970年  
油彩、キャンヴァス  
161.8×130.0cm

愛というものは、信じたり、信じられなくなったり、絶えずゆれ動いているものですけれど、僕が描こうとする男や女は、このごろ地上の光と風のなかに目を細め、野獣のしなやかな精神と肉体を夢見て横たわりたがります。  
生命の輝きを逃がすまいと、あまり一気に描きすぎたようです。つかんだつもりが逃げていく愛の後ろ姿でした。  
第4回北海道秀作美術展図録(1971年)より



《男の像》  
1974年  
油彩、木炭、キャンヴァス  
130.3×189.5cm